

「キドニタテカケシ衣食住」

国土地理院 5 万分の 1 地形図をすべて歩き尽くす

全国の全市町村役場を訪問しためぐり系

定年退職して 5 街道を歩き尽くす

会社を経営しながら日本中の都市を極める行動派

大学の工学部を首席で卒業。自分より地理的数学に詳しい人がいたら道場破りしたいが口癖。急逝。

私の場合は「**地理院地図**」（国土地理院ホームページのトップページから入れます）を活用しています。標高もすぐにわかりますし、断面図や**展望図**なども加工できて、思わず引き込まれてしまいます。

ここでは仮に**自宅から半径 1km を歩く範囲**と決め、その中で何をするかを考えていきます。

...

まず地図上に、自宅から半径 1km の円を、コンパスで描きます（グーグルマップや地理院地図の**同心円機能**を使うときれいに描けます）。

地図を見るときは、主なポイントの**標高**も調べてみます。先述の「地理院地図」や「スーパー地形」などを使えば簡単にわかります（スーパー地形、<https://...>）。土地の高低がわかると凹凸に敏感になって、歩くことがますますおもしろくなります。

古い地形図を見るのに便利なのが、時系列地形図閲覧サイト「**今昔マップ On the web**」（<https://...>）です。このサイトでは明治以降の過去の地形図を、現在の地形図と対比しながら見ることができます。時代が 9 ブロックに分かれていて、明治、戦前、戦後、高度成長期、2000 年前後などを選択して比較していくと、地域の変化やその程度が手に取るようにわかります。

加えて、先述の **Web「地理院地図」** の活用をおすすめします。初めは少し難しく感じるかもしれませんが、国土地理院ホームページに詳しい使い方の説明があるので、参考にしながら挑戦すればすぐに慣れます。特に次の三つは私がおすすめしたいメニューです。

- ・「**標高・土地の凹凸**」——地形の凹凸が一目でわかる「**自分で作る色別標高図**」を作成できます。
- ・「**土地の成り立ち・土地利用**」——「**土地条件図**」や「**地形分類**」を見ることができます。
- ・「**年代別の写真**」——昔の土地利用の様子を、現在の地図と当時の空中写真を使って比較

できます。また、写真の年代が選べるので、地域の変遷を瞬時に読み取ることができます。
「現在の地図（地形図）」と「年代別の空中写真」を行ったり来たりしながら、わがまちの
時間旅行を楽しんでください。

自分の住んでいる場所の人口くらいはなんとなく知っているのですが、地形、標高、気温、
雨量、地質、植生、面積、土地利用など、地域のプロフィールというべき構成要素はふだんほ
んど意識していません。別に必要でもないのに調べもしないというのが普通です。逆に改め
て調べてみると意外に手間がかかり、なかなか描けないものだということがわかります。すべ
てが勉強になります。

しかしこのプロフィールを知っていると、単にわがまちをよく知っているというだけでなく、
他の地域との比較や規模感の把握がしやすくなる**比較の「勘」**が得られます。自分のものさし
を持っていると便利なことがあるのです。

それに加えて、**つながりや流れでものごとを理解する**ということも大事です。

まいまい東京

~~~~~

全 100 コースの東京まち歩きツアー。

<https://www.maimai-tokyo.jp/>

~~~~~

「東京 23 区歩き：〇〇区」

23 区を順番に、その区のシンボルゾーン、知られざる名所などを回る、どちらかといえば
ウォーキング重視のコース。

やはりポイントは、偶然めぐり会った人との挨拶や何気ない会話ではないでしょうか。

昔から「**キドニタテカケシ衣食住**」という話の切り出しの定石があります。話のきっかけと
して「キ」（気候、季節）、「ド」（道楽、趣味）、「ニ」（ニュース）、「タ」（旅）、「テ」（天気ま
たはテレビ）、「カ」（家族）、「ケ」（健康）、「シ」（仕事）、「衣食住」（ファッション、食事・グ
ルメ、住まい・住所）を入口として始めるというノウハウです。

その中の「キ」（季節の話題）、「テ」（天気）は、いつでもどこでも使える便利な話題です。

「今年は格別に暑いですね」「だいぶ秋らしくなってきましたね」「桜がみごとですね」「今日は
冷えますね」「花粉がひどいですね」などと話しかけられて、それを否定する人はいないで
しょう。

この 「人に話しかける」「教えてもらおう」というのは、常々難しいと思っていましたので、
何人かのベテランの地理の先生方にそのノウハウを訊ねたことがあります。

いろいろな答えをいただきましたが、特に参考になったのが、①常に笑顔で挨拶をする、②

相手も話したいなあと思っているときがあるので、そのタイミングをうまくつかむ、③何ごとも何度も場数を踏めばだんだんできるようになる、というものでした。わずかでも、たくさんの人と話すことで、地域の姿がより鮮やかに見えてくるのではないかと考えています。

スマートフォンには、屋外にある説明板などに書かれている文章を声に出して読み上げると、そのままテキスト化して記録できる、メールのマイク（音声）機能があり便利です。周りに人がいると、声を出して読み上げるのは恥ずかしいですが、そのまま原稿にも使え、とても効率的です。看板や説明板を写真に撮ったとしても、意外と後で読まないものです。

NHKの「Eテレ」 高校講座 地理はテレビのみで、週1回

毎週金曜 14:40-15:00 の 20 分間。4月から2月にかけて40回。

私が楽しみにしているのは、内容の説明より、中間や後半に組み込まれている現地取材レポートや現地見学などです。これらがとてもよくできていて、あたかも地理の旅をしているかのような臨場感があります。

・・・

さらにこの講座のよいところは、自学自習できるように、パソコンやスマートフォンを使ったバックアップ体制、フォローのしくみが入念に作られている点です。

放送が終了した後でも、ストリーミング放送でその番組を何度でも、しかも章ごとに視聴することができます。5分前後の時間があれば、パソコンでもスマートフォンでも学習できるのです。

<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/chiri/>

場作りと交流

参加者はどんなことを期待して集まってくるのでしょうか？

先ほども述べたとおり、私が会を始めたときは、「社会人の地理クラブ」「大人の地理クラブ」として、地理をテーマにした勉強会・セミナー・サロンを定例化したいという夢を抱いていたのですが、実際に始めてみると、勉強スタイルよりも、巡検のようなフィールドに出る行事のほうが圧倒的に人気があることがわかってきました。

・・・

いわゆる「まち歩き」として、歩いて学ぶ楽しさへの希望が強いことがわかりました。

私も真似をしてみました。私の方法はまず行ったことのない町名をなくすようにします。

たとえば中野区なら19、墨田区なら26、練馬区なら46の町名があり、その中で歩いたことのない町名がないようにするのです。その町へ行くには、その途中の町も当然通過するわけですから、何度も繰り返していると、町名を問いただけ、おおよその風景や地形、道路関係に察しがつくようになります。

地理を楽しむことで、さまざまな分野の知識だけではなく、いろいろな考え方を幅広く受容できる力も生まれるように思います。

地理の旅でさまざまな場所を訪ね実際に見聞することで、自然環境・社会環境の地域性を認識できます。世の中は多様であり、何事も簡単に結論づけられないと実感します。

それと同時に、人々が環境に対してどう闘い、どう折り合いをつけながら生きてきたかを知ること、**人の営みにも敬意**を抱きます。地方には地方の歴史があり、各地域にもそれぞれの歴史があり、一軒一軒には家庭の歴史もあります。

寺田寅彦の随筆に「地図をながめて」という名文があります。

「今、かりに地形図の中の任意の一寸角をとって、その中に盛り込まれただけのあらゆる知識をわれらの「日本語」に翻訳しなければならないとなったらそれはたいへんである。等高線ただ一本の曲折だけでもそれを筆に尽くすことはほとんど不可能であろう。それが「地図の言葉」で読めばただ一目で土地の高低起伏、斜面の緩急等が明白な心像となって出現するのみならず、大小道路の連絡、山の木立ちの模様、耕地の分布や種類の概念までも得られる。」(抜粋『寺田寅彦随筆集第五巻』岩波書店)。